

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 9	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Cigarette smoking and the lifetime alcohol involvement continuum 喫煙と生涯のアルコール飲酒について	
執筆者	
Christopher W. Kahler, David R. Strong, George D. Papandonatos, Suzanne M. Colby, Melissa A. Clark, Julie Boergers, Raymond Niaura, David B. Abrams, Stephen L. Buka	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug and Alcohol dependence 93,111-120,2008	
キーワード	
喫煙、飲酒、アルコール性障害	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>飲酒が喫煙習慣の開始、進展、持続にどのように関連しているかについて検討することは健康に害を与える喫煙や過剰飲酒、薬物乱用の予防や改善に非常に有用である。しかし、これまでの飲酒と喫煙に関する検討ではこれら喫煙や過剰飲酒、薬物乱用を飲酒に起因する単一の事象ととらえられていない。本研究では生涯のアルコール消費量やアルコールに起因する問題を反映する飲酒指数を作ることを、そして、この飲酒指数と喫煙の開始、進展、持続との関連を検討することとする。</p> <p>(方法)</p> <p>34歳から44歳の1508人を対象に生涯の飲酒量やDSMIVの診断基準を用いて精神特性を反映する飲酒指標を作成した。Raschモデルにより飲酒指標と喫煙習慣の開始、進展、持続、薬物乱用との関連を検討した。</p> <p>(結果)</p> <p>飲酒指数は喫煙の開始、進展、持続と関連していたが、特に、飲酒習慣の持続を示す飲酒指数が喫煙と強い関連を認めた。</p> <p>(結論)</p> <p>以上の結果より、生涯の飲酒と生涯の喫煙との間には強い関連を認めた。</p>	